

総合特別区域の進捗に係る評価
[農林水産業分野]

令和元年度

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4.5+4)/2=4.3

4.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原管理面積、②野焼き再開牧野数	99%	5
2	牛馬の放牧頭数<定性的評価>	0%	-
3	①観光入り込み総数、②阿蘇地域の宿泊客数<定性的評価>	0%	-
4	あか牛肉料理認定店数	96%	4
5	草原体験利用者数<定性的評価>	0%	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4.5$

4.5

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (2.3+3.7+4)/3=3.3

3.3

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

・自然資源や農業資源に恵まれ、観光の好適地であるが、その一方で、一連の自然災害によって本来あるべき力が発揮できずにいる。そんな中でも、採草、牧野、焼き畑のための草地管理の維持がほとんど行われ、高齢化が進む中にあっても牧野組合数も引き続き1組合増加し、かつ、放牧頭数も平成30年度のデータであるが大きく増加している。地域の活力が回復を生んでいるのであり、取組の方向性が正しいと評価。

・評価指標(2)「牛馬の放牧頭数」や、評価指標(3)－①「観光入り込み総数」、評価指標(3)－②「阿蘇地域の宿泊客数」、評価指標(5)「草原体験利用者数」について、令和元年度のデータが反映されておらず、そもそも、これらの指標が適切なのか、速報値を入手できないのかといった疑問も生じるが、平成30年度の数値を見ると、いずれも当初の平成28年度よりは増加している。

・コロナ禍の下でインバウンドを含む観光客の増加がしばらく期待できない中、足元を固めて機会を待つしかない。学校教育との連携は特筆される。近隣地域との連携を強化していくのが当面の方向であり、国内・近隣県からの固定的な誘客戦略が重要になると考えられる。その意味でエコツーリズムを掲げ教育カプログラムを造成する等の取り組みは評価。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.3+3.3+3.5 \times 2) \div 4 = 3.7$

3.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。